

乳房組織の病理学的検索方法

乳房組織の病理学的検索法には、手術前病理診断・手術中病理診断・手術後病理診断があります。手術前病理診断には、穿刺吸引細胞診や分泌物細胞診などの細胞診断、針生検や切除生検などの組織診断があり、この結果をもとに治療を開始します。手術中の病理診断には、迅速病理診断があり、センチネルリンパ節や乳腺の切除断端の診断を行ないます。最も重要なのは、手術後病理診断です。摘出した検体は、ホルマリンで固定し、原則として乳頭と腫瘍を結ぶ線に垂直に 5mm 間隔で切片を作成し、診断を行ないます。組織型やリンパ管・静脈などの脈管侵襲、リンパ節転移、病変の広がり、病理学的悪性度診断、断端の診断を行います。また、治療選択に関わる、エストロゲン受容体(ER)、プロゲステロン受容体(PgR)、ハーセプチンなどを判定し、病理診断結果として報告されます。

病理診断は、治療法決定に関して最も重要な診断であり、また詳細に観察をするため、手術で摘出してから結果が出るまで、約 1～2 週間かかります。通常は、術後落ち着いた頃に外来でご説明いたします。